

小中一貫した教育だより

R6.2.5

小中合同研修会 ～東栄中学校区小中一貫した教育 1月17日(水)

東栄中学校を会場に、「小中合同研修会」が行われました。当日は、80人を超える参加者がありました。

まず、中学1・2年生の授業公開・見学を行いました。小学校卒業時から成長した子どもたちの姿を見ることができました。

コミュニティスクールに向けた守本先生のお話の後、体育館で9つの分科会に分かれ、情報の共有、意見交流が交わされました。小中の垣根を越えて活発な話し合いとなりました。各学校の実態や抱える課題から、9年間を見据えたカリキュラムを考えていくための貴重な機会となりました。それぞれの部会で交流した内容を紹介します。



【学習ルール】

- ・小中の授業の進み方、テストの方法等に違いがある。
- ・提出物を出す習慣を中学では徹底させている。
- ・各学校で、鉛筆の持ち方の指導に力を入れていくとよい。
- ・「自分で何をするか決めて勉強する家庭学習」の取組。
各小学校でも自分から学ぶ指導が行われてきている。



【ICT】

- ・各学校で授業中実際にどのように機器を使用しているか、「持ち帰り」状況について交流。
- ・まなびポケット、Google workspace の各アプリを各学校で計画的に使用している。
- ・「中学校段階において、主体的に情報をつかみ解決できる子を育てるために ICT 環境を整えていく」そのために目指す姿として
「情報モラルやネットマナー・授業規律を守りながら、児童が文房具と同様に、または辞書と同様に、必要に応じて Chromebook を使用する姿」を確認。



【中学入学までに身に付けさせたい力】

- ・自分で課題を設定して、自ら学ぶ姿勢を大切にという視点から、各学校の家庭学習の取組について交流
- ・中学校では、自由に持ち帰ることができる各教科のプリントを用意し、生徒が自分で選んで持ち帰って家庭学習に使用している。
- ・くり返しの学習を大事にしている。Chromebook があることで、書くことが疎かにならないようにしている。
- ・学力を高めるとともに、「やる気」や「習慣化」を定着させ、学力の基盤としていきたい。



【不登校】

- ・各学校の不登校児童への対応について交流した他、学校のサポート体制についても情報を共有した。
- ・進学時の引継では、小学校低中学年にまで遡った情報・資料があるとよい。
- ・子どもによって悩みや背景、原因は様々。個に応じた対応が求められるが、いくつかパターン化した対応策等があると、手立てを考えやすいのではないかな。



【生徒会・児童会】

- ・各学校の児童会の取組を交流し、共通のものや各学校独自の行事内容を確認した。
 - ・東栄中学校で行われる行事の様子をクラスルームやホームページからパートナー校の児童が閲覧できるようにする。中学校の実態を知ることができ、活動が円滑につながるのではないかな。
- (学習発表会→学校祭 音楽集会→合唱コンクール)

【生徒指導】

- ・中学校では話の聞き方等、基本的な生活・学習習慣が身に付くよう入学後4・5月にかけて細かい指導を繰り返している。
- ・小学校は、どうしても担任（もしくは学年）の指導がメインになるが、中学校は学年団（担任・副担任いるので、7～8人）のチームでの対応になる。チームで対応することで成果が大きいのではないかな。
- ・人間関係の作り方、人との距離感の育ちに課題がある。
- ・「話を理解する」「自分の気持ちを表現する」「次にどうなるかを考える」という力を育てていくためにも、「思っていること、考えていることを言語化していく」ことの大切さを感じた。コミュニケーション力不足の現状を考えると、今後も重点的な指導が大切である。



【体力向上・食育・保健】

- ・各学校の体力テスト結果から実態や傾向を交流した。また、各学校独自の「体力向上」に向けての取組状況を交流した。
- ・中休みがないことも1つの理由かもしれないが、中学校では休み時間に体を動かそうとする意識が少ないという課題がある。
- ・バスケットボール、バレーボールなどの競技で、小中の接続の難しさを感じている。(用具、基本的な動き、場の設定)
- ・保健室によく行く児童の傾向や様子を小中養護教諭で交流していくとよいのではないかな。

【特別支援教育】

- ・コロナ禍、レインボーピックの廃止の影響などがあり、小中間の交流が課題になっている。
- ・中学校入学までに育てたいことの1つに「体力の向上」がある。中学校では、就労に向けて体力づくりの必要性（集中力、気力維持にも関連する）がある。したがって、小学校段階では体育や休み時間などで積極的に体を動かし、体力向上を目指したい。

